



親と子の考古学教室 (左上) 模型をつくろう (右上) あそぼうよ
(左下) 土の絵を描こう (右下) なにを食べていたの？

もくじ

- P. 2 ● 親と子の考古学教室
『遊ぼう学ぼうずっとずっと昔の日本』
● 小展示「考古学と模型(もけい)」を開催
● スポット展示「菅平右衛門」木簡
- P. 3 ● 文化財講座点描
● 郷土の文化財を見学する会
- P. 4 ● 第49回大阪府埋蔵文化財研究会
● 体験学習
- P. 5 ● 平成16年度交野市市民文化財講座
● 重要遺跡の発掘調査報告書刊行記念講演会

- P. 6 ● 民家博、弥生学習館共催ツアー写真展
● 韓国から研究者来訪
● 発掘調査記録映画の制作
● 職員の異動
- P. 7 ● 八尾南遺跡(その3)の現地公開
● トピックス
* 讃良郡条里遺跡03-5出土の木製鞍
* 大尾遺跡 04-1の「戦士の墓」
- P. 8 ● 弥生文化博物館 冬の展示ご案内
● 近つ飛鳥博物館 冬の展示ご案内
● 日本民家集落博物館 催しご案内(1月~3月)

親と子の考古学教室

遊ぼう学ぼうずっとずっと昔の日本

9月の日曜・祝日、小学生とその保護者を対象におこなった「親と子の考古学教室 遊ぼう学ぼうずっとずっと昔の日本」全4回の概略をお伝えします。

むかしの道具～模型をつくろう～では、銅鐸・高杯・袋状口縁壺・広口壺や動物、乗り物などのペーパークラフトに挑戦（先生：本間元樹技師、表紙左上写真）。子供たちは器用にはさみを扱い、細かいところはお父さんやお母さんに手助けしてもらいながら、制作に励みました。とても集中した時間を過ごし、みなさん終わったときにはぐったりお疲れでした。

むかしのおもちゃ～あそぼうよ～では、泥面子を作りました（先生：島内洋二専門調査員、表紙右上写真）。京都市考古資料館からお借りした泥面子型で型取りし、飛騨白川の民家の囲炉裏で焼きました。子供たちはすっかり型取りに夢中になり、1人で30個以上を作る子もあって、囲炉裏の中は泥面子でいっぱい。焼いている途中ではぜてしまうものもありましたが、それも“空気は温まると膨張する”と勉強になったようです。焼きあがった泥面子をゴムボウルに投げ入れて親子で競うなど、時間いっぱいまで囲炉裏のまわりや民家の庭で遊びました。

むかしの絵～土の絵を描こう～では、讃良郡条里遺跡出土の足跡を印刷した台紙にそれぞれが絵具で足型をつけ、足の大きさの比較をしたり、発掘調査現場から採取した土を乳鉢ですりつぶし、水と木工用ボンドを混ぜたものを顔料に見立てて、模造紙に流して絵を描きました（先生：筆者、表紙左下写真）。参考までに見せた天然顔料に子供たちはたいへんに興味を示し、首を伸ばしてのぞきこんでいました。2・3人が一組となってにぎやかに制作し、前衛芸術作品ができあがりしました。

むかしの食べもの～なにを食べていたの？～では、先生（山口誠治主査）の指導のもとに服部緑地公園内で樹木観察とどんぐり拾い、室内にもどって木の実クラフトを楽しみました。袋いっぱいのどんぐりや松ぼっくりを広げ、や



特製アベマキ入り
おこわせんべい！

じろべえや笛、ネズミやクマなどのほか、それぞれが想像力を競って作品を作りました（表紙右下写真）。また、食体験として、特製アベマキ入りおこわせんべいと、煎りシイの実を食しました。

ちなみにアベマキ、金曜日の午後から日曜日の朝まで、煮ては水に晒すを繰り返すこと30回余り。それでもアクは抜けきれませんでした。おこわにすると気になりませんでした。が、実だけを食べるにはまだちょっと…。いったい昔の人はどれだけ根気よくアク抜きをしたのか、はたまたコツがあるのか？ ごぞんじのかたはご一報ください。とはいえ、アクだらけとなった鍋や流し台を思い返すと、今季はもう

挑戦する意欲はありませんが…。

各回とも参加者10名以上、最高35名を得ることができ、盛況のうちに終了しました。参加してくれた子供たちはみんな積極的に熱心。好天にも恵まれ、楽しんでもらえたようです。白状しますが私、子供が大の苦手。日常子供と接することはありませんので、実は各回とも戦々恐々としていたのですが、終わってみれば、私も子供と同じレベルで遊んで学んだ楽しい4日間でした。皆さまもぜひ、先生として、参加者として、またの機会にご参加ください。

開催に際しては、日本民家集落博物館の職員・ボランティアのかたがたに全面的なご協力をいただいたほか、中部調査事務所の非常勤職員のかたがたにはペーパークラフトの見本作成にご協力をいただきました。また、催しにご家族でご参加いただいた職員のかたもありました。そして何より、本間技師、島内専門調査員、山口主査には先生役をお引き受けいただき、準備から後片付けまでご尽力いただきました。皆さま、どうもありがとうございました。

（峠 美穂）

小展示「考古学と模型(もけい)」を開催

9月1日～30日の間、日本民家集落博物館内カルチュアはっとりで、遺跡や遺物の模型・レプリカを展示した「考古学と模型(もけい)」展をおこないました。

展示品は、当センター職員手作りの模型を主とし、田須谷古墳群の模型や余部遺跡出土の鉄釜鋳型の模型をはじめ、彩色高杯の模型、土面レプリカなどが並びました。一般的な展示施設とは異なり展示品を間近に見ることができ、個々の展示品を四方八方からのぞきこむなど、熱心な見学者の姿が見られました。本間元樹技師作成の船模型の展示（とご本人の随時解説）もあり、すばらしいできばえに感嘆の声が聞かれました。

なお、個々の展示品については、『カルチュアはっとり』NO.4でご紹介しておりますので、ご参照ください。

（峠 美穂）

スポット展示「菅平右衛門」木簡

昨年度の大阪府警察本部棟新築にともなう発掘調査で、豊臣期大坂城の堀跡から出土し、今年6月末頃の新聞に取り上げられた「菅平右衛門」木簡。「菅平右衛門に赤右衛門が鴨を送る」際の荷札とみられるこの木簡の特別展示を、7月3日～11日に大阪府立近つ飛鳥博物館で、9月23日～30日に日本民家集落博物館内カルチュアはっとりで、それぞれおこないました。

歴史上に名を残す武将を木簡で確認できるという、きわめてまれな遺物に、見学者の興味はつきないようでした。

（峠 美穂）

文化財講座点描

前号でご紹介した今年度の文化財講座は、第1回～第5回の中国・東南アジア域の前半が終了した。講師の先生と演題は下記の通り。第6回講座10月20日（水）中央大学教授 前川 要氏の『「もう1つの蒙古襲来」を検証する—ロシア サハリン島白土城を探る—』は、台風23号のため12月2日に延期となった。

第1回 5月20日（木）

『中国 唐大明宮太液池の共同調査—中国社会科学院考古研究所と奈良文化財研究所との共同調査—』

島田敏男氏（奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部遺構調査室長）

第2回 6月17日（木）

『カンボジア アンコールワット遺跡群の最新情報』

杉山 洋氏（奈良文化財研究所飛鳥資料館室長）

第3回 7月15日（木）

『世界遺産龍門石窟の保護』

岡田 健氏（東京文化財研究所国際文化財保存修復協力センター保存計画研究室長）

第4回 8月19日（木）

『韓国の考古学調査—解放前の古蹟調査事業—』

高 正龍氏（立命館大学文学部助教授）

第5回 9月16日（木）

『中国河南省鞏義市黄冶 唐三彩窯址の発掘調査』

巽 淳一郎氏（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター国際遺跡研究室長）

中国に関する3講座では、「唐」の都城の一部、大明宮の調査で明らかになった太液池を中心とした園池遺構の最新の成果や、ユネスコ世界遺産龍門石窟の歴史と保存修復事業を中心とする話、これまでその製作技法等分らないところが多かった唐三彩の窯跡・工房跡などのご講演をいただいた。

また、アンコールワット遺跡群は、西欧諸国の長い調査・修復の歴史と日本の調査についてとタニ窯跡の調査の最新情報、また、韓国に関しては、韓国における日本の調査の歴史と問題点についてお話いただき、それぞれに新たな知見を得ることができた。（石神幸子）



第3回 岡田 健氏

郷土の文化財を見学する会

本年度の第4回例会は7月18日（日）に、四條畷市の生駒山脈西麓部に残る、古代の牧場に関係する遺跡と、南北朝時代、楠氏ゆかりの戦乱跡に関係する史跡を中心に、同市教育委員会の野島稔氏の案内で探索しました。

野島氏は幼少の頃から当地にお住まいで、四條畷市がどのような気風を有した町であるのか、実体験をもとにした、説得力があり、郷土への愛着も伝わってくるお話をしていただきました。途中、四條畷市立歴史民俗資料館を訪れ、同市の歴史、文化の概要を学びました。当館は、小さな資料館ですが、四條畷地域の昔の様子を、イラストや、模型などを使って、視覚化し、わかりやすく再現した、各所に工夫のこらされた展示施設、という印象を持ちました。

第5回例会は9月11日（日）に京都市の御所から平安宮跡を経由して二条城、神泉苑までを、財団法人京都市埋蔵文化財研究所の吉村正親氏の案内で歩きました。京都が権力の中枢を担っていた時代の、いわば、その中心部であった場所を主に訪れ、京都市街の変遷などを学習しました。

普通の町の道端にあるような文化財を見つけてその意義を学習することの多い大会ですが、今回はやや趣向を変えて、日本文化の心臓部を訪れた、といえるかもしれません。

旧西陣織会館として、近代の文化財でもある京都市考古資料館では、京都の文化財、特に埋蔵文化財の観点から、平安京を中心とした京都の概要を知ることができました。

第6回例会は吹田市の岸部地区と、佐井寺地区を10月10日（日）に訪れました。同市は、研究機関が多く、新興の住宅が並び立つ、ニュータウンで構成された文化的な衛星都市として有名ですが、昭和の中頃までは、北摂地方の典型的な農村地帯であったことはあまり知られていません。

このような素朴な農村がもつ、多様な文化、及び、須恵器や瓦の生産地として古代の中央政権からも重要視された窯業地域としての当地の性格を、吹田市立博物館の西本安秀氏に各所で、詳細に解説していただきました。さらに、見学の途中、吹田市立博物館を訪れ、吹田市の歴史と文化の概要が学べ、今回の見学の指針となりました。（岡本圭司）



吹田市伊射奈岐神社の秋祭りに出会う

第49回大阪府埋蔵文化財研究会

第49回大阪府埋蔵文化財研究会を堺市竹城台の大阪府教育委員会調査事務所講義室にて開催しました。

今回のテーマは「最近の大阪府における弥生時代の集落関連の発掘調査と研究事例」です。

(財)大阪府文化財センター(以下、当センター)川瀬貴子氏の「瓜生堂遺跡の調査－弥生時代の遺跡展開－」、河内長野市教育委員会 太田宏明氏の「三日市北遺跡の調査－弥生時代の遺構・遺物を中心として－」、当センター土井孝之氏の「池上曾根遺跡の調査」、(財)大阪市文化財協会 大庭重信氏の「長原遺跡の調査」、大阪府教育委員会 横田明氏の「木の本遺跡の調査－弥生時代前期を中心に－」、東大阪市教育委員会 井筒美智与氏と市田英介両氏による「鬼虎川遺跡の調査－56次・58次調査を中心に－」、当センター 中村淳磯氏の「男里遺跡の弥生集落」、当センター 市本芳三氏の「太秦遺跡の調査」、大阪府教育委員会 三木弘氏の「池上曾根遺跡からの視角」以上の9本が発表されました。

最近の発掘調査事例における成果の発表が中心で、現在も調査が継続されている遺跡の発表もありました。

弥生時代に都市の存在の存否が論じられたり、その年代が大幅に遡る可能性が論じられたりする、昨今の考古学界でも特に注目を浴びる同時代ですが、これらのいわば、最先端の研究が論拠とするのは、今回の発表に見られるような、各人が地道に積み重ねた発掘成果にほかなりません。

今回の発表には瓜生堂遺跡、池上曾根遺跡、男里遺跡など、弥生時代の中心になる集落と考えられてきた、全国的にも著名な遺跡の調査発表が多くみられたことが特徴的でした。古くから良く知られたこれらの遺跡も、再評価され、新たな展開を見せはじめていることが窺えました。

研究発表は、三木氏の発表一本だけでしたが、池上曾根遺跡の都市としての性格を論じようとする最近の考えに対して、出土石器を詳細に分析し、その考えに疑問を呈する、挑発的かつ刺激的な内容でした。75名の参加者は、真新しい調査研究成果の披露と、活発な質疑応答に対し、一様に満足されたと思われます。(岡本 圭司)



研究会の一風景

体験学習

大阪府立今宮高等学校の4年目の夏期集中講座『考古学入門』が八尾南遺跡で、発掘現場の担当者の指導のもと、7月28日(水)から8月3日(火)までの5日間実施された。2年生5名と卒業生2名が参加して、連日の猛暑の中で体調を崩す者もなく無事に終了した。

出土遺物や弥生時代の住い等の講義、弥生時代の川の跡の検出・土器の検出・実測図の作成などの外業実習、土器の洗浄・土器の接合・土器の判別等の内業実習に積極的に参加していた。出土遺物の講義の中で龍の絵が描かれた絵画土器に触れることができた時は感動し、土器の判別では、弥生土器・須恵器・土師器・瓦器などの区別ができるようになり大変喜んでいて。土器の検出は集中力を要し疲れたようであったが、土器接合ではきれいに接合出来、達成感を楽しんでいた。また、大阪市文化財協会の長原調査事務所では、興味深そうに説明に耳を傾け、展示室や作業室を見学していた。発掘現場のスタッフの親切で丁寧な対応や、判り易い言葉による説明に生徒達は感謝し、酷暑の中にもかかわらず前向きな姿勢で取り組んでいた。

生徒達は感想文の中で、「発掘が土器検出や土器接合の仕事だけではなく、膨大な調査報告書の作成等の多くの仕事があり、多くの人の努力によって成り立っていることが理解できた。」「いっそう文化財に対する認識が深まり、本当の考古学に触れたような気がした。」と述べている。

東京都町田市の和光高等学校が日本古代史研究旅行の1日を、池上曾根遺跡での発掘体験学習(9:30~15:00)と大阪府立弥生文化博物館の見学(15:00~15:40)にあてため、2年生25名が10月14日(木)に来阪した。

発掘現場で概略説明を受けたあと、①竹ベラ等を使っての土器の検出、②レベルを使っての遺構図の作成、③土壌中の遺物の採集の3班に別れて、交代しながら発掘体験をした。午後から石器使用実演(サヌカイトの剥離実演や石皿・磨石使用)が行われ、明快な話と実演に全員が集中していたが、遺構の検出になると、土質の違いの見極めが難しいとさかんに首をかしげていた。

(山岡平和)



土器接合に挑戦中の今宮高校生

平成16年度交野市市民文化財講座

交野市文化財事業団主催の交野市市民文化財講座が平成16年9月8日より、3週にわたって毎週水曜日の午後7時から9時まで、交野市立保健福祉総合センター多目的ホールを会場に開催された。この講座は交野市民を対象に毎年開かれているもので、今年度のテーマは「第二京阪道路の調査でわかったこと」であった。

当センター京阪調査事務所交野分室では前年度より第二京阪道路建設に伴う発掘調査を実施していることから、主催者より講師派遣の依頼を受け、各遺跡調査の現場担当者が、各回の講座を担当することとなった。

第1回は9月8日の「有池遺跡」についての講座で、木下保明技師・長戸満男技師により、中世の屋敷地や、古墳時代の堅穴住居・流路が発見された有池（その2）・（その3）の各調査についての説明が行なわれた。

第2回は9月15日で、始めに、弥生時代後期～古墳時代初頭の土器がまとまって出土し、集落域の可能性が考えられる「東倉遺跡」の説明を前田義明主査・岡本智子専門調査員が行なった。引き続き、後藤信義技師・三浦基行専門調査員によって、弥生時代から古墳時代にかけて埋まった自然流路、古墳時代の5棟の堅穴住居、また平安時代の水田等の発見があった「上の山遺跡」の調査についての説明がなされた。

第3回は9月22日の「上私部遺跡」で、この遺跡ではこれまでに古墳時代後期の堅穴住居40棟と、古墳時代から飛鳥時代の掘立柱建物36棟を確認し、この一帯に大規模な集落が存在していた事が明らかになったということを鈴木廣司技師・相良英樹専門調査員が説明した。

3回の講座には、毎回会場を満席にする約80人の方の参加があり、配布資料とスライド上映による説明のメモをとるなどして熱心に聴講されていた。交野市域での発掘調査成果に対して、理解を深めていただけたものと思われる。また、説明後の質疑応答の時間には多くの方々から様々な質問が寄せられ、市内の身近な所で行なわれている遺跡の発掘調査への関心の高さを感じる事ができる講座であった。（三浦基行）



相良専門調査員による講座

重要遺跡の発掘調査報告書刊行記念講演会

『久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書』Ⅵが9月末に刊行された。これまでの調査で久宝寺遺跡は、集落、生産域、大規模な墳墓群を検出している古墳時代初頭～前半の大遺跡であることが分かってきている。今回の調査では庄内式古段階の一括資料等が出土しており、最古の土師器を研究する上で重要な成果を上げている。

この調査報告書刊行を記念した講演会を10月17日（日）14時～16時、大阪府立弥生文化博物館1階ホールで開催した。調査担当の池島支所 西村 歩班長による『久宝寺遺跡に最古の土師器を探る』の講演である。

スライドを使つての、堅穴住居・井戸などの集落、畦や畝が検出された水田・畑遺構、集落・生産域を画する大溝などの遺構の説明から始まり、井戸出土の庄内式古段階の一括資料と大溝肩部出土の布留式古段階の土器を比較しながら庄内式土器について講演であった。講演後4～5件の活発な質疑応答があった。弥生博での数ある講演会の中でも珍しい、土器そのものの講演に70名の参加者も満足していただけたのではないかな。

当日は弥生博では秋の特別展『大和王権と渡来人―三・四世紀の倭人社会―』も開催されており、各地で出土した庄内式併行期の土器を見ることができ、庄内式土器の時代背景とともに一緒に考えることができる時宜に合った講演会となった。（石神幸子）

民家博、弥生学習館共催ツアー写真展

日本民家集落博物館との共同企画、民家集落ツアー「九州椎葉紀行ひむか神話街道の旅」と池上曾根史跡公園協会との共同企画、史跡ツアー「播磨・但馬に古代遺跡をたずねて」についての写真展を各々が開催しました。

民家集落ツアーの写真展は平成16年9月29日から平成16年10月11日の期間で、南部の曲家で開催しました。

平成16年6月25日、26日両日、熊本県白川水源や宮崎県高千穂、椎葉村、西都原古墳群を訪れた時の写真展です。

史跡ツアーの写真展は、平成16年7月27日から平成16年8月15日の期間で、池上曾根弥生学習館1階のガイダンスルームにて開催しました。

平成16年6月30日、7月1日両日に播磨大中遺跡、兵庫県立歴史博物館、但馬地方の船宮古墳、池田古墳、箕谷古墳群、大藪古墳群、但馬国分寺跡、いずし古代学習館、和田山町立郷土歴史資料館ほかを訪れた時の写真展です。

両写真展とも、ツアー参加者からの写真の応募が少なかったことは少し残念でしたが、ツアーに参加されなかった来館者の方々にも、訪れた土地の写真から、当地に残る文化財や文化習俗を知っていただき、考古資料、民俗資料、建築資料はじめ、様々な文化財に対する造詣を深められ、より親しみが増したであろうと思われました。（岡本圭司）

韓国から研究者来訪

7月以降9月までに、下記の人々が当センターを訪れた。
7月8日 韓 盛旭氏（松廣寺博物館）、金 善基氏（圓光大学校博物館）。
8月5日 権 五栄氏（韓神大学校国史学科）。
9月21日 全 玉年氏（釜山大学校博物館）、申 衡錫氏（蔚山広域市文化芸術課）、洪 尚順氏他2名（蔚山文化放送）

発掘調査記録映画の制作

当センターでは、多くの人々に発掘調査現場の臨場感を追体験していただくために、これまでも発掘調査の記録映画を制作してきた。現在、第二京阪道路関係の発掘調査と八尾南遺跡の発掘調査を対象にした16ミリ映画をそれぞれ撮影中で、ともに今年度中には完成の予定である。

16ミリとともにVHSも制作し、学校や博物館等に無料で貸出ししている。



八尾南遺跡での撮影風景

職員の異動

今年度は、年度途中に次のような異動がありました。

退職者（8月31日付）

若林邦彦（技 師）同志社大学歴史資料館へ
永井晃子（専門調査員）信楽町教育委員会へ
新藤智美（専門調査員）8月30日付

新規採用（10月1日付）

木村寛之（専門調査員）京阪調査事務所調査第五係
津田・東倉治遺跡
長嶺 睦（専門調査員）中部調査事務所調査第一係
禁野本町遺跡
塚本浩司（専門調査員）池島支所／池島・福万寺遺跡Ⅱ
鵜山まり（専門調査員）南部調査事務所調査第二係
八尾南遺跡

八尾南遺跡（その3）の現地公開

八尾南遺跡では、去る平成16年9月12日に現地公開を実施した。本調査は大和川改修（高規格堤防）事業に伴うものである。当遺跡では過去2年にわたる調査で、弥生時代後期前半の遺構面が厚い氾濫堆積物によって被覆された結果、旧地表面がほぼ完全な形で残存し、居住域と生産域からなる当時の集落景観を良好に留める資料であることを確認している。当該遺構面における重要な成果としては、周堤を備える竪穴建物を7棟検出したことが挙げられる。今年度の調査においても、同じ遺構面で竪穴建物を2棟確認しており、その内の1棟（竪穴建物9）では、壁溝や壁面上において繊維質の構造物が良好な状態で検出されたほか、中央土坑内に木杵の存在を確認し、さらに住居の隅に据えられたままの一本造りの梯子の出土をみるなど、数々の重要な新知見を得ることができた。この遺構面の成果については、昨年度に現地説明会を実施した経緯があるが、上記の成果に対し、関係者各位からのご指導・ご教示を賜ることを目的として、調査途中の発掘調査現場を公開することとなった。

当日の準備としては参考資料を用意するとともに、見学者に竪穴建物の埋没状況のイメージを持って頂けるよう、土層断面写真のパネル展示を行った。現地公開当日は、早朝の降雨に見舞われ、設定順路内に緩みが起こる等、コンディションは必ずしも良好であったとは言い難かったが、幸い開催直前には天候に恵まれ、関係各位の協力を得て、無事に準備を行うことができた。開始時刻である午前10時には、一定の見学者の来跡を頂いたため、担当者が遺跡の概要説明を行い、その後に現地の公開を開始した。

参加者については、休日であったことも幸いして、近畿各府県から93名もの多数の方々の参加を得ることができ、現地公開は予定通り正午をもって終了した。来跡頂いた方々には、稀にみる竪穴建物の良好な残存例ということもあって、非常に熱心に見学して頂き、調査成果の意義や、竪穴建物の構造について、極めて貴重なご意見を多数賜ることができた。来跡頂いた方々に深く御礼申し上げる。

（正岡大実）



八尾南遺跡現地公開風景

<<< 讃良郡条里遺跡 03-5 出土の木製鞍 >>>

第二京阪道路建設に伴う発掘調査を行っている寝屋川市新家所在の讃良郡条里遺跡03-5で、古墳時代中期～後期の流路跡から木製の鞍が出土した。

木製鞍の出土例は全国で約30余りと少なく、大阪府下では百舌鳥陵南遺跡、八尾南遺跡、讃良郡条里遺跡（長保寺遺跡）に続き、4遺跡5例目の発見となる。出土した鞍は、高さ20.1cm、最大幅41.8cm、厚さ1.9cmで、上段に2つの孔、下段に居木と接続するための孔が左右4つずつ穿孔されている。2孔1組で1枚の居木を固定していたとすると、左右の孔数から居木は4枚と推測される。他遺跡の例から見て、馬の背に当たる部分の角度が前輪は80度前後、後輪は100度前後であることから、本遺跡の鞍は後輪と推定される。

また、この鞍は、孔の整形が不十分であることや表面の削り痕が確認できること、紐通しの痕跡がないことなどから、未完成品の可能性が高い。

さらに同じ流路内からは、馬の歯や顎骨の他、初期須恵器や韓式系土器、馬の飼育に必要な塩を得るための製塩土器、祭祀色の強い朱付壺・白玉・紡錘車・双孔円板・赤彩木製柄頭・木製陽物？等も出土している。

古墳に副葬品として納められた馬具が装飾性の高い金銅製で権威の象徴と考えられるのに対し、木製馬具

は井戸や流路跡から出土することが多く、日常的な乗馬道具と見なすことができるかもしれない。

近隣では、木製の鐙や馬の骨がほぼ完全な状態で出土した四條畷市の葎屋北遺跡をはじめ、馬に関する遺跡が多数発見されており、渡来系馬飼い集団の存在を窺い知ることができる。生駒山地西麓から流れ出る幾筋もの河川に仕切られた平野を利用し、この地域一帯で牧が営まれたのではないだろうか。（宮本飛鳥）



木製の鞍

<<< 大尾遺跡 04-1の「戦士の墓」 >>>

大尾（だいび）遺跡は、寝屋川市国守町内に所在し、大阪平野を一望できる丘陵上部に位置する。

第二京阪道路建設工事に伴って平成13年度調査に引き続き今回調査を行ったところ、弥生時代中期後葉の方形周溝墓に伴う墓壙を検出した。

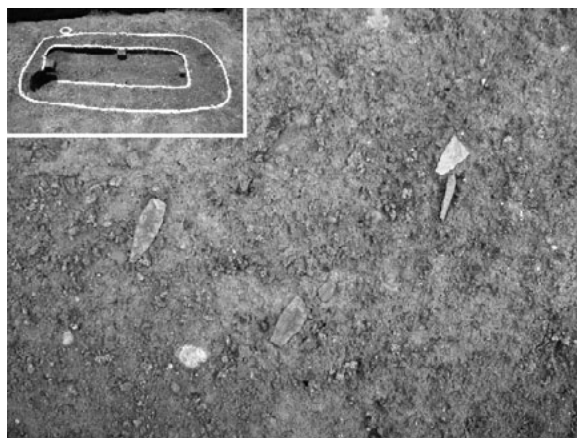
今回見つかった墓壙は隅丸方形で規模は、全長2.3m、幅約1mである。残存する深さは約8cmを測る。残念ながら木棺自体は残存していなかったが、木棺内の埋土と墓壙を埋めた土との境は、平面と断面で明瞭に検出できた。木棺部の規模は、全長1.7m、幅0.5m、残存する深さは約8cmである。主軸は座標西から約12°北に振っている。また木棺底部辺りからサヌカイト製打製石鏃7点分が出土した。

打製石鏃は、ほとんどが先端を下にし傾いた状態で出土した。全ての石鏃は先端が欠けた状態にあり、現在のところうち4点は先端部が見つかり接合できた。体に突き刺さって先端部が折れたものと考えられる。

出土した石鏃は墓壙中央寄りの東側に分布している。人骨が遺存しないため頭位は不明であるが、石鏃が上半身に射られたものとする、その出土位置から頭位は東であったと推定できる。その場合仰臥埋葬なら石鏃は遺体の右腕や右胸付近で5点、左胸付近で1点、左腰付近で1点となる。

石鏃が刺さった大阪府下の例は、東大阪市瓜生堂遺跡や八尾市山賀遺跡・亀井遺跡などがある。本遺跡の近くでは、四條畷市の雁屋遺跡で打製石鏃12点が腹から胸のあたりで見つかっている。

大尾遺跡では、約40基の方形周溝墓が見つまっている。その中で石鏃や石槍が1点棺内で出土している墓が2基発見されている。今回の墓の被葬者は戦死して葬られた可能性が考えられる。（青柳佳奈）



墓壙全景および打製石鏃出土状況（左が東）

弥生文化博物館 冬の展示ご案内

平成17年冬季企画展示 **船橋遺跡優品展**
1月8日(土)～2月6日(日)



水差形土器

当館が所蔵している船橋遺跡(藤井寺市・柏原市)出土の中から、特に造形美に優れたものをご紹介します。平成4年冬に開催した「船橋展」以来、久しぶりの登場です。どうぞご期待ください。

平成17年冬季企画展 **ここまでわかった
考古学「瓜生堂遺跡の最新研究」**
2月19日(土)～3月27日(日)

◆ 調査成果報告会・ミニシンポジウム

- ①「瓜生堂が問いかけるもの
—1970年代から現在、未来へ—」2月27日(日)
- ②「関連科学が明らかにした瓜生堂遺跡の実像」
3月13日(日)

◆ 講演会

- ①「瓜生堂の炭素14校正年代と近畿弥生実年代」
3月20日(日)

◆ プレ春季特別展講演会

<(財)大阪府文化財センターとの共同研究発表会>
「東海の弥生文化」 3月27日(日)

◆ ミュージアムコンサート 12月18日(土)・2月13日(日)
詳しくは博物館までお問い合わせください。

(電話 0725-46-2162)

<http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/>

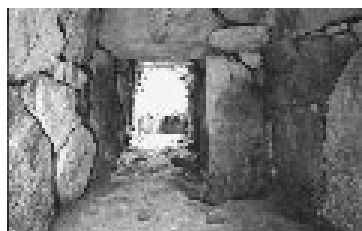
近つ飛鳥博物館 冬の展示ご案内

◆ 平成16年度冬季企画陳列

「一須賀古墳群の調査・

—D・E・F・J・K・L・P支群—

博物館に隣接する「近つ飛鳥風土記の丘」にひろがる一



一須賀古墳群最大級のD4号墳石室

須賀古墳群の調査成果を紹介するシリーズの第5弾で完結編となります。今回は、風土記の丘の園路から見学しやすい古墳を多く取りあげます。

期間：平成17年1月18日(火)～3月13日(日) 月曜休館

○歴史セミナー

1月30日(日) 白石太一郎(本館館長)

2月13日(日) 中井貞夫(大阪府教育委員会)

3月13日(日) 森岡秀人(芦屋市教育委員会)

○学芸員による展示解説

1月23日(日)、2月20日(日)

◆ 一須賀古墳群講座「古墳群を歩く」2月27日(日)

◆ (財)大阪府文化財センターと近つ飛鳥博物館の共同研究発表会 3月6日(日)「古墳出土金工製品の日韓比較研究」

◆ テーマ展示 **ここまでわかった考古学**

「久宝寺遺跡の最新成果—河内平野における古墳出現を探る—」
3月19日(土)～4月10日(日)

○調査成果報告会(3月21日(月・祝)と4月3日(日))

※くわしくは、博物館までお問い合わせください。

問い合わせ先：大阪府立近つ飛鳥博物館

TEL. 0721-93-8321

<http://www.mediajoy.com/chikatsu/>

日本民家集落博物館 催しご案内(1月～3月)

◆ 正月飾り展 <1/5(水)～30(日)>

—民家各地の正月飾りを再現展示—

◆ ふるさとのお雑煮会 <1/9(日)～10(祝) 11:00～>

—白川の栃餅雑煮他を囲炉裏ばたで再現—

◆ 民家の囲炉裏で暖まろう

<1/15(土)～3/27(日)の各土・日・祝 13:00～16:00>

—囲炉裏ばたでのお茶のサービス—

◆ 餅つき体験 <2/6(火) 11:00～13:00>

◆ 企画展示—道具—「やね」 <2/8(火)～3/8(火)>

—古民家の屋根を中心とする写真展—

◆ 企画展示—「はこぶ」 <3/15(火)～4/15(金)>

—昔の運搬用具を中心とする企画展—

◆ 民家集落作品展(絵画・写真・俳句その他様々な研究等)
<3/6(日)～21(祝) 10:00～16:30>

※2/18(金)～20(日) 作品募集・受付

上記の催しについて、詳しくは博物館へお問い合わせください。皆様のご来館をお待ちしています。

(TEL 06-6862-3137)



民家集落作品展